

# 公益財団法人日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成講習会 選考・評価基準

## I. 評価・選考方法

日本スポーツ協会指導者育成委員会アスレティックトレーナー部会（JSP0-AT 部会）は、本講習会の受講希望者として推薦団体から推薦のあった者について、提出された書類を以下の観点を中心に JSP0-AT 部会が定める基準の基づき評価(点数化)し選考します。

※評価の結果、各団体における推薦順位と入れ替わる場合もあります。

### 1. 本講習会の教育に対応できる受講希望者の基礎的な資質能力と環境について

(1) スポーツ医・科学に関する学びへの状況や意欲

(2) 過去5年間(2019年4月1日～2024年3月31日)における、スポーツ現場での【スポーツ活動中の外傷・障害予防】【コンディショニングやリコンディショニング】【安全と健康管理】【医療資格者へ引き継ぐまでの救急対応】の観点でそれぞれトレーナーとして活動した実績

### 2. 推薦団体における JSP0-AT の必要性や位置づけについて

### 3. 推薦団体における受講希望者の JSP0-AT 取得後の活用計画について

## II. 提出書類

	書類	様式	回答者
1	推薦書	Excel	推薦団体
2	団体調書	Microsoft Forms	推薦団体
3	個人願書	Microsoft Forms	受講希望者

## III. 内定者数

各団体から最低1名は内定することを原則としますが、相対的に点数が極めて低い場合はこの限りではありません。

## IV. 推薦にあたっての注意事項

- ・ 受講希望者の推薦にあたっては、JSP0-AT の役割、3つのポリシー（アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー）を踏まえて、よりふさわしい人物を各団体のスポーツ医・科学委員会やトレーナー部会等の会議体において、公正かつ透明なプロセスによる選考を経た上でご推薦ください。なお、同一人物が複数の団体から同一年度に推薦された場合は、どちらの推薦も受理いたしませんので、ご注意ください。

※ 推薦にあたっては、受講希望者が他団体から推薦をもらっていないか事前にご確認ください。

※ 受講内定者が受講を辞退した場合でも、その推薦団体の落選者を代わりに内定することはいたしませんので、推薦いただく段階で本人の受講意思を十分にご確認ください。

- ・ 2名以上の推薦を行う場合、1名以上は女性を含むようにご配慮ください。

2024年1月31日作成

## 参 考

### JSP0-AT の役割と理念

JSP0-AT は、1)スポーツ活動中の外傷・障害予防、2)コンディショニングやリコンディショニング、3)安全と健康管理、および 4)医療資格者へ引き継ぐまでの救急対応という 4 つの役割に関する知識と実践する能力を活用し、スポーツをする人の安全と安心を確保したうえで、パフォーマンスの回復や向上を支援する指導者です。

その指導対象は、日本代表やプロスポーツ選手などとして活動する競技者のみならず、地域スポーツクラブ、学校・大学等の運動部活動、民間スポーツ施設、地域のスポーツセンターなどでスポーツ活動をするすべての人々です。

### アドミッションポリシー（資格取得希望者の受け入れに関する方針）

JSP0 は、上記の JSP0-AT の役割を理解の上、「スポーツ関係機関・団体等と連携して、スポーツをする人の安全と安心を確保し、パフォーマンスの回復や向上を支援する意欲がある者」を、養成講習会の受講者として受け入れます。

### カリキュラムポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

ディプロマポリシー(DP)を達成するために、共通科目と専門科目の 2 つのカリキュラムによる体系的な学習を促します。

共通科目	スポーツの意義と価値を理解し、幅広いスポーツ医・科学等の知識を身につける。
専門科目	スポーツ活動中の外傷・障害予防、救急対応、コンディショニングやリコンディショニング、および安全・健康管理等に関する専門的な知識と技術を身につける。

加えて、180 時間を越えるスポーツ現場での実習を通じて、共通科目および専門科目で身につけた知識と技能を実践に発展させるように促します。

### ディプロマポリシー（JSP0-AT 認定に関する方針）

JSP0-AT の教育カリキュラムを修了し、JSP0 公認スポーツ指導者共通の資質能力（思考・判断、態度・行動、知識・技能）に加え、次の資質能力を身につけた者に JSP0-AT の資格を付与します。

知識・技能	スポーツ医・科学の知識を有し、スポーツ現場においてスポーツをする人の安全と安心を確保し、パフォーマンスの回復や向上を支援するための技術を有する者
思考・態度	・自らの役割を遂行するために、常に学び続けることができる者 ・科学的根拠に基づいたスポーツ環境の構築に寄与できる者 ・多様な人材と、有機的に連携できる者

